

<熊本支部例会事前抄録>

日時：2022年10月25日（火）19時30分～

会場：熊本県歯科医師会館4階ホール

—一般講演抄録2—

中等度酸蝕症があるガミースマイルの患者に対して行った包括的歯科治療

関喜英　せき歯科クリニック　〒861-2101 熊本市東区桜木3丁目22-19

■抄録

酸蝕症により広範囲の象牙質が露出すると、咬耗や摩耗と相まって tooth wear は加速度的に進行し、咬合崩壊や審美障害などの問題に繋がる。従って、病的な tooth wear に対しては早期の治療と、必要最小限の侵襲による審美的及び機能的な回復を目指すべきであると考えられる。またガミースマイルは、口唇の状態、上顎前歯の位置や歯冠長、歯肉辺縁と CEJ と歯槽骨頂の位置関係など、様々な指標から原因を診断して治療にあたるのが重要である。

患者は34歳の女性で、上顎前歯が小さく見えること、ガミースマイルであることなどの審美障害を主訴に来院された。患者には過食症による持続性嘔吐があり、上顎前歯部に中等度の、上顎小臼歯部に軽度の酸蝕症が認められた。さらにブラキシズムも加わり、歯冠長が短くなっていると考えられた。またスマイル時には、歯冠長と同程度の上顎歯肉の露出が認められた。下顎右側第一大臼歯は欠損しており、インプラント補綴を提案したが拒否された。このような患者に対し、矯正治療、歯周形成外科、自家歯牙移植、そして上顎前歯部にはMIを考慮したほぼ非切削での接着修復を行い、良好な結果を得たので報告する。